



皆様はじめまして。摂食嚥下チームでは「つばめ通信（蓮田病院版）」を定期的に発信し、皆様との交流を図ると共に広く情報の共有をめざして努力して参りたいと考えています。今日は第1回目です。

さて皆様、嚥下の「嚥」の字にツバメが使われているなあ、と思ったことはありませんか？中国語で「ツバメ」と「飲み込む」は同じ発音（エン）です。漢字の種類に音と意味を組み合わせる形成文字というのがありますが、「嚥」がまさにそれで、「口」が関係する「燕（エン）」ということで、「嚥」が飲み込むという漢字になったようです。それには身近にいる鳥である、ツバメのヒナが大きく口を開けて餌をねだっているイメージが働いていたのではないかとされています。

また英語では「ツバメ」も「飲み込む」も全く同じswallowです。古英語ではswelgan（飲み込む）とswelwe（ツバメ）と微妙に違うのですが、時代が下るにつれて最終的に同じ形になりました。ここにもやはり、ツバメのヒナのイメージがあったのではないかと容易に想像されます。地球のこんなに離れた場所なのに、「つばめ」と「飲み込む」が古くから人間の生活の中で深くつながっているのが面白いと思い、このお便りを「つばめ通信（蓮田病院版）」と名付けました。

ところでこの通信、（蓮田病院版）となっていますね。その理由は次号でお話ししますので楽しみに。

摂食嚥下委員長 篠原千恵

自己紹介

こんにちは、私は蓮田病院の脳神経外科を担当している医師です。

2020年の初め、まだコロナウイルスが猛威を振るう直前に、蓮田病院に摂食嚥下を支援するチームを作ろうという話が持ち上がりました。地方都市の例に漏れず蓮田市あるいはその周辺地域は高齢化がすすみ、食事をとることが難しくなっている方がどんどん増えています。これまでは「年だからしょうがない」「食べられなくなったら終わり」と諦め気味に語られていた摂食嚥下障害も、簡単には片付けられない問題としてスポットライトを浴びるようになりました。今後もこの問題は社会的・経済的にも大きくなる一方です。

この問題に真正面から向き合おうというのが摂食嚥下チームです。摂食嚥下障害をきちんと評価し、場合によっては訓練を行う事でまた食事をとることができるようになったり、無理な経口摂取を控えて適度な経腸栄養を併用しながら楽しみとしての食事を続けたり、安全に楽しく栄養管理をすることで地域の方々の健康を維持していけたら、というのがチームの目標です。昨年秋に摂食嚥下委員会が結成され、未経験ながら不肖私が委員長をつとめ、約9ヶ月が過ぎたところです。まだまだ勉強途上ですが、今後とも温かく見守ってください。よろしくお願いたします。



摂食嚥下委員長
篠原千恵

次号のお知らせ

2021年8月1日 発行

委員長あいさつ、摂食嚥下チーム
メンバーを紹介します

